

ICD 講習会「実例から見る院内感染の実態と対策」

司会の言葉

東北大学大学院医学系研究科病態制御学講座 分子診断学分野
横浜市立大学医学部附属病院臨床検査部

賀来満夫
満田年宏

MRSA はもとより、種々の病原体による院内感染アウトブレイクを未然に防ぐための対策は、どの医療機関においても重要な課題です。

本講習会では、セラチア（耳原病院：太田豊隆先生）・レジオネラ（慶応大学小児科：新庄正宜先生）・結核（東北大学加齢研：渡辺 彰先生）・疥癬（湘南鎌倉病院：山之上弘樹先生）と、4つの病原体をテーマに各々の院内感染アウトブレイクの事例を中心にご講演戴くよう企画いたしました。何れも過去に国内で複数の医療機関でアウトブレイクの事例が報告されている病原体です。これら病原体により院内感染アウトブレイクが発生を未然に防ぐためには、感染管理上幾つかの特徴的なポイントがあります。①セラチアでは注射調剤や消毒薬の管理・運用体制が、②レジオネラでは飛沫の発生する環境への対策が、③結核においては長期咳嗽患者（医療従事者）のトリアージや咳嗽患者のその後の管理体制が、④疥癬では意識障害者などで皮膚知覚の低下した患者入院時の皮膚の状態のスクリーニングの徹底などが重要となってきます。演者の先生方には、a.こうしたアウトブレイク事例を未然に防ぐためにはどのようなポイントに留意すべきなのか、b.また不幸にしてこうした事例の疑いのある場合にはどのように初動体制をとり、c.どのような対応策を講ずることでその被害を最小限に喰いとどめることができるのか、d.行政との連携やマスコミ対応はどのようにあるべきか、等について具体的にご講演戴く予定でおります。本講演を聴講いただき過去の事例からより多くを学ぶことで、望ましい院内感染対策に繋がるよう期待いたします。